

天

行事報告

ICTフェア 11/2



中学1年生から高校2年生までを対象に校内のICT機器を活用した教科の授業が公開されました。今年度は各学年タブレット導入が揃い、そちらを用いての授業やホームルームが行われています。今回は「ICTフェア」のイベントの一つとして、1~3時間目までは保護者も参観でき、子どもたちの集中する様子を窺い知ることができました。

なお後援会からの寄付で整備されたCLACフレームも活用されていました。(詳細は159号に掲載)

クラス懇親会 11/9



今年は以前にも使われていた大井町駅前の「きゅりあん」に於いて開催されました。中学1年生から高校1年生まで、各クラスが声と伴奏、気持ちを合わせて壇上に臨んでいました。

保護者会に合わせて会報誌163号を発行し配布いたしました。また後援会から、藍桐祭でも好評だった校章入り瓦せんべいを提供いたしました。

合唱コンクール 11/30



暖かな陽射しのなか、今年も元気にロードハイクが行われました。朝早くより準備してくださったボランティアの保護者の皆さまより、生徒たちへ大人気のカレーうどんが振舞われました。

後援会からは水とinゼリーを提供しました。

ご参加いただきました皆さま、お疲れ様でした。

ロードハイク 2/19



学校説明会Q&A 12/15



令和元年最後の中学校説明会は、希望者が多く、ラウンジとつながるホールに分けて行われました。その中で在校生の保護者によるQ&Aがあり、後援会幹事の4名が、等々力の良さを伝えられれば…と保護者視点から学校生活・部活のことや、TQ／ート・A-TESTを通して子どもが成長していく様子をお話しました。

受験生ならびに保護者の皆さまは、説明に熱心に耳を傾けて下さいました。



特集

Special
feature



カウンセラーの先生に Q & A 聞きました

Q 利用層と年間相談数はどのくらいでしょうか?

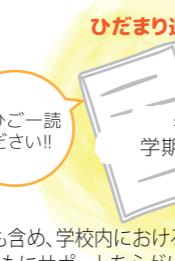
A 保護者と生徒になります。年間600件程の相談件数があります。

Q 相談時間枠はどのくらいでしょうか?

A 約50分~60分です。

Q 先生方が心がけてくださっていることがあれば、教えてください。

A コンセプトは「協働」。親は我が子の専門家。カウンセラーはその親も含め、学校内における子どもの心身の発達を助ける支援組立チームの一員として学校とともにサポートを心がけています。



「ひだまり」
日当たりが良く
あたたかい場所
をめざして
アクセス:第一校舎1階 後援会室隣



・開室時間でも相談中ですと、あいにく電話をお受けできません、申し訳ありません。
お手数ですが、暫く経ってからおかけ直してください、留守電にご伝言をお願いいたします。



令和元年度卒業生
東京都市大学
等々力高等学校

卒業によせて ～noblesse obligeと グローバルリーダー～

校長 原田 豊

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。
加えて皆さんは、一世一代の改元という大きな歴史的転換期に遭遇し、令和になって初めての卒業生ということになります。まさに新時代の先頭に立って道を切り拓いて行く皆さんであってほしいと願っています。
また、保護者の皆様におかれましては人生の大きな節目を無事迎えることができ、喜びもひとしおのことと存じます。本当におめでとうございます。そして、長年にわたる後援会活動にご尽力いただいたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、年末にビッグニュースが飛び込みました。横領やマネーロンダリング(資金洗浄)などの罪に問われていた日本を代表するグローバル企業のトップが、007やMI6のようなスパイ映画ながらに国外逃亡したのです。
変装したり楽器ケースの中に隠れたり複数のパスポートを所持していたり、確かにお馴染みのスパイ映画ではよく見かけるシーンですが、お金にものを言わせて違法行為を重ねた当人への厳しい批判から、日本の出入国制度の甘さや司法制度のあり方への批判まで、例によっていろいろな評論しています。

そうした中、数日前に当事者であるそのグローバルリーダーが逃亡先で記者会見を開きました。皆さんもニュースなどでどんな話だったかご存知の人も多いでしょう。そして、それぞれにいろんな思いで聞いたことでしょうが、私はこんなことを思いました。

まずとにかくよく喋ると感心しました。しかも、自分の正当性を根拠・証拠を示すことなく喋りまくっていたという感じでした。そして次にこれまた、ただひたすら相手の非をほんんど同じ言葉、同じ調子で諭っているという感じを受けました。そして、聞き終わって、私はこの人にはグローバルリーダーとして最も大事な資質が欠けているな、と強く思いました。

その欠けているものとは何だと思いますか? そう、それは「ノプレス・オブリージュの精神」というものです。「高潔な若人が果たすべき責任と義務」の自覚がこの人には欠けている。社会的な地位が高く経済的にも恵まれている者には、一般の人よりも多倍思い・責任と義務が生じてくるもので、その責務を立派に果たさなければならないのです。そもそもこのノプレス・オブリージュの精神をこの人が常に心の片隅にでも持つてさえいれば、逃亡劇の発端となつた不正や社内での告発も起らなかつたのではないかと思うのです。

権力や富を笠に着て、やせ我慢のできないものは到底リーダーにはなれません。この都市大等々力で学んだnoblesse obligeの精神をどんな時にも考えるヒント、判断の尺度にもって令和の新時代を力強く生き抜いてほしいと思っています。そういう人なら必ず社会に出てからも自分の居場所をもって楽しく活躍できることでしょう。